

- - - 授業の概要 - - -

- - - 授業計画 - - -

平成23年3月11日の東日本大震災の後、諸君らは防災についてどのような考えを持ったであろうか。平成11年および15年の御笠川氾濫における博多駅周辺の水没、平成17年の福岡県西方沖地震の被害により、安全とされていた福岡市内でも日頃から災害に対して高い注意意識が必要であることが明らかとなった。また、将来関東・東海・関西などに就職する学生に対しても、防災・減災に関する知識を身に付けることは自分の命を守るために極めて重要である。また、将来工場などで活躍する技術者、さらには安全を保障するシステム開発等に進む学生にとっても、災害に関する広い知識を持つことは重要である。

このため、主に災害発生メカニズムと被害低減のための工学技術を中心とした講義を行う。講師は学内外から多岐に渡っており、学科の専門性にとらわれず、防災に関する広い知識を得ることに特徴がある。

- - - 到達目標 - - -

この講義では、防災に関する科学的・工学的基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、自然災害の発生メカニズムや被害予測、災害発生時に必要となる社会システムや被害を軽減する技術、産業活動における安全性配慮の必要性を学び、一生涯役に立つ工学基礎を身に付けることができる。

- - - 事前・事後学習（予習・復習） - - -

毎時間行う小テストを活用して、よく復習すること。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(80%)と毎時間行う小テスト(20%)を総合して成績評価を行う。

- - - テキスト - - -

プリントを配布するので、テキストを購入する必要はない。

- - - 履修上の留意点 - - -

講師の都合で講義順が変更となる場合がある。

本科目は、共通教育科目（総合系系列科目）「現代を生きる（災害から自分や家族を守る）」と関連が深いので、理解を深めるためには両科目の受講が望ましい。

授業計画学習目標

1災害のメカニズム地震のメカニズムとその被害（高山峯夫）
2津波、高潮のメカニズムとその被害（山崎惟義）

3最新の地震活動、各種自然災害（松井 渉）
5火山噴火、火砕流、溶岩流（奥野 充）
6風水害のメカニズムとその被害（渡辺亮一）
7土砂災害のメカニズムとその被害（矢ヶ部秀美）
8さまざまな防災技術災害観測・防災システム（矢ヶ部秀美）
4都市における防災計画（辰巳 浩）
9大災害時における避難行動（重松幹二）
10警戒宣言、避難勧告（長輿良憲）
11避難所設営、ボランティア、緊急救助技術（小畑和彦）

13可燃物と初期消火、危険物の保管（加藤勝美）12すまいの耐震化と防火（高山峯夫）

14電気電子・情報通信技術安否情報、被害情報の発信・伝達・収集、インターネットの活用、流言飛語、風評被害（鶴田直之）

15雷災害、電力ネットワーク（西嶋 喜代人、孟志奇）